山麓より
徒歩約 20 分

高知市薊野　真宗寺山

絵金墓地案内

編集・発行　絵金蔵運営委員会
2012 年 3 月

友竹斎（絵金）夫婦墓

次男・弘瀬俊三郎夫妻墓ほかと並ぶ

【絵金墓碑銘】

（正面）

友竹斎＊1夫婦墓

（側・背面）

先生姓木下氏為医家某嗣称弘瀬氏諱名美高名柳栄後革雀七号友竹斎洞意雀翁其別号也自幼嗜画為池添某之門弟及長遊江都従事於洞和兼学美信之筆意錦還以来以画為職乞者充門其運筆也得于天資不必師伝為雅俗応人好為世所愛玩門人受業者数百人其筆法行于世娶橋本氏生二男一女曰房太郎出而継三吉氏次曰俊三郎任旧藩主山内氏賜俸列士籍先生及入其戸籍不以産業為意揮毫之余縦心事外優遊以弥曰焉至生業経営之事則多内助明治九年三月八日病卒享年六十五矣法諡曰錦綵院誠道雀翁葬于公園東北真宗寺山同十二年七月二十二日橋本氏病卒享年六十二矣法諡曰浄心院妙月法悟于葬同域焉

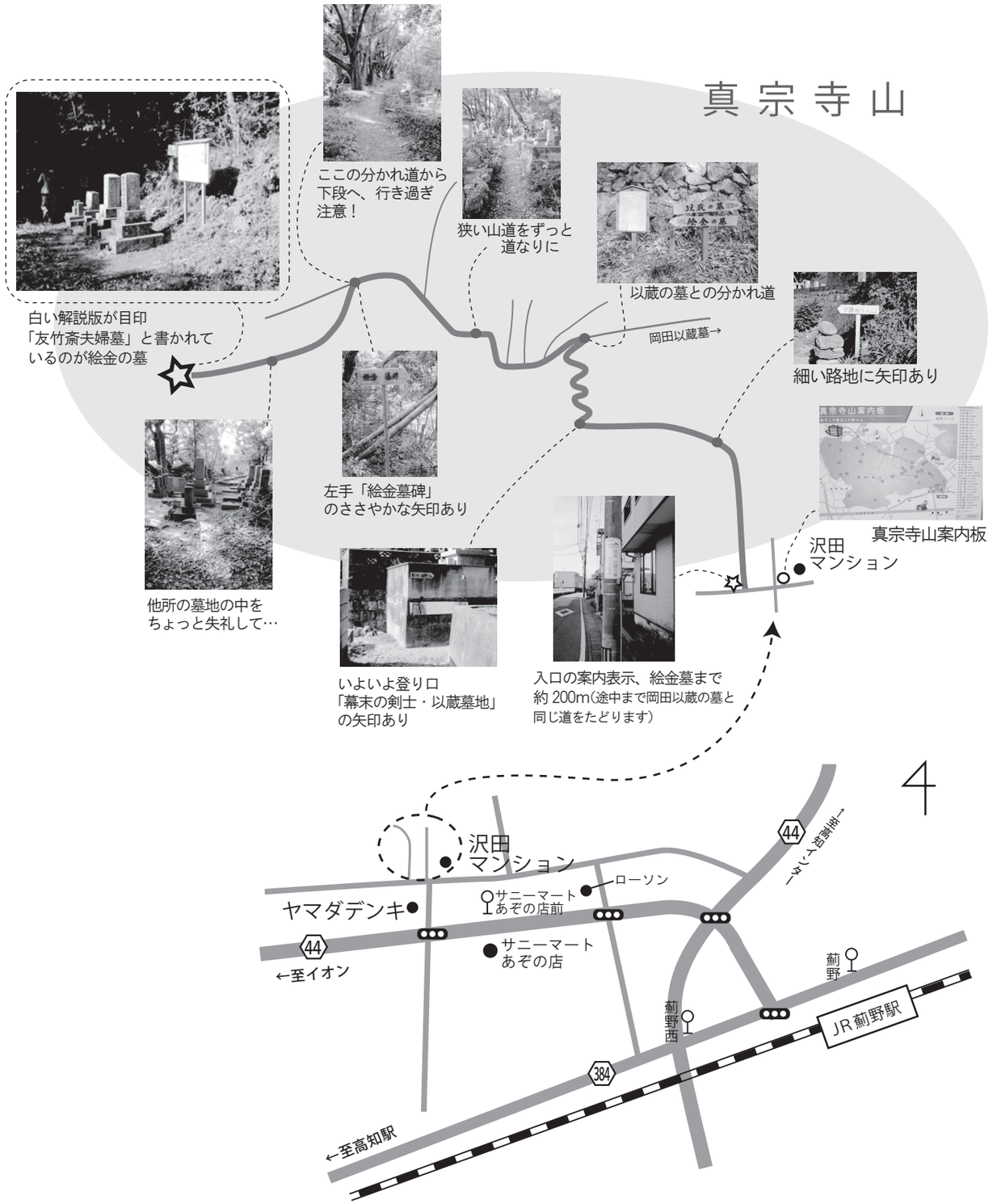
明治十二年十月　大町晩翠撰

土居養書

（要約）絵金は姓木下氏、また医家某を嗣ぎ弘瀬氏を称した。諱は美高、名は柳栄のち雀七と改め、号は友竹斎、洞意、雀翁と称した。幼い頃から絵をたしなみ、池添某＊2の門弟となり、江戸にて洞和＊3に従い、美信＊4の筆意を学んだ。（土佐に）帰ってからは絵師となり、多くの人に絵を求められた。その画力は人々を喜ばせ、教えを受けた者は数百人に及ぶ。妻は橋本氏を娶り、二男一女をもうけた。長男・房太郎は三吉氏＊5を継ぎ、次男・俊三郎は土佐藩主山内氏より士籍を賜わった。明治九年三月八日、病にて六十五歳で逝去。諡名（戒名）は「錦綵院誠道雀翁」、真宗寺山に葬られた。明治十二年七月二十二日には妻・橋本氏が病にて逝去。諡名は「浄心院妙月法悟」、同じ場所にて眠る。

明治十二年十月　大町晩翠選＊6　土居養書

＊1　絵金の雅号
＊2　土佐藩の御用絵師・池添楊斎美雅
＊3　土佐江戸藩邸の御用絵師・前村洞和
＊4　狩野洞春美信
＊5　土佐藩御用表具師・美吉家
＊6　文武館経学教授などをつとめた儒学者



4

ご注意

□歩きやすい服装でお参り下さい。途中急な坂や非常に狭い道があり、 下り道は落葉ですべりやすいので、 特に足元にお気を付け下さい。

□真宗寺山は地元の方によって掃除や整備が進められています。マナー を守り、ゴミなどは持ち帰りましょう。

□石が傷まぬよう、墓石に直接お酒をかけるのはご遠慮ください。